

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 2025 年度事業報告書

1 2025 年度概括

2025 年度は、中期計画（2023-2026）の 3 年目として、地域の活動団体への伴走支援や協働のきっかけづくりに注力した。主な成果は以下の通り。

- ・ **支援の深化と広がり**: 相談件数は年間 251 件と目標（150 件）を大きく上回り、相談から行政・企業との連携、助成金応募まで一貫して支援する伴走事例が増加した。
- ・ **次世代層へのアプローチ**: 「学生おうえん隊」を刷新した「まちだ地域まるごとキャンパス」を始動し、高校生・大学生など 76 名の参加を得た。また、中学生の職場体験の受け入れ拡充、市内大学との連携、学生が参画するプロジェクトの実施など若い世代と地域活動の接点を創出した。
- ・ **協働の定着**: 「まちカフェ！オープンデー」が地域の活動団体に定着し、団体同士の交流や団体からの企画提案などがすすんだ。まちカフェ！における協働事業も多数（59 件）生まれた。

2 活動日数

2025 年 4 月 1 日~2026 年 3 月 31 日(12 ヶ月、242 営業日)

3 事業報告

(1) 地域活動に関するコーディネート事業

ア 相談・伴走支援【実施目標 年間 150 件程度 → 実績年間 251 件】（2024 年度 207 件）
来訪相談 192 件、アウトリーチによる相談・ヒアリング 59 件

内訳（複数選択可）

事業相談 95 件、意見交換/情報交換 90 件、助成金相談/資金獲得 17 件
WS 等開催支援 8 件、設立相談 9 件、情報発信 7 件、社会貢献 3 件
その他 30 件

【主な成果】

相談→伴走支援（助成金獲得支援、他団体・他組織のコーディネート等）→新しい事業の実施という具体的な動きが生まれた。

成果事例 1：たぶまち

相談・伴走支援をする中で、多文化共生の啓発をめざし絵本の作成、まちカフェ！インクルーシブ研究会への参加、ロータリークラブの支援による外国児童のための無料日本語教室立ち上げを行った。助成金への応募を支援し＜夢おうえんファンド＞の助成も決定した。



▶ 絵本「どんなきもちでいるのかなあ」

成果事例 2：いぬねこ守り手ネットワーク

防災課や小学校等の協力を得て市内初のペット同行避難訓練を実施。相談後もオフィスから紹介したまちだ地域まるごとキャンパスやまちカフェ！に参加したことで、新たな連携先の開拓や担い手の拡充を行った。次年度に向けた事業計画立案や資金獲得の支援も行い、＜キリン福祉財団＞の助成も決定した。



▲市役所で開催したペット防災セミナーの様子

イ 協働事業の支援

●まちカフェ！オープンデー 【実施目標 年10回以上 → 実績年12回】

協働事業を生み出す場として、毎月第1木曜日、町田市庁舎2階市民協働おうえんルームにて「まちカフェ！オープンデー」（サポートオフィスの出張相談・打ち合わせ等のスペースとして開放・イベント実施）を開催。まちカフェ！参加団体へのアンケートでは、「他団体との交流が生まれた」「市の職員にも相談しやすかった」「気軽に訪れやすい雰囲気だった」「イベントと相談会がセットになっていることで、行くきっかけにしやすいと感じた」「まちカフェ！本番とは異なり、落ち着いた雰囲気の中で団体同士がじっくり話をすることができる貴重な機会」という声があった。また、提案として「活動に参考になるようなまちカフェ！オープンデーの活用例などを知りたい」「土日開催も期待したい」という意見があった。活用例については、「サポートオフィス通信」66号で紹介した。土日開催については、次年度以降の検討課題としたい。

【主な成果】

団体の定例会議や事務作業スペースとして活用され、団体の成長へとつなげた事例や団体からの企画提案により講座が実施された事例など、地域の活動団体にまちカフェ！オープンデーが定着した。

<オープンデーで実施した企画>

月	実施企画	ご登壇者と主な内容
4月	午前：まちだづくり応援基金公募説明会 午後：コミュニティコーピング体験会	午後： サポートオフィススタッフがファシリテーターとなり「社会的孤立」を解消する協力型ゲーム「コミュニティコーピング体験会」を開催。
5月	午前：まちだ地域まるとキャンパス受け入れ団体向け説明会 午後：コミュニティコーピング体験会	午前：2025年度からスタートした「まちだ地域まるとキャンパス受け入れ団体説明会」を開催。その場で受け入れの相談も受け付けた。
6月	まちカフェ！インクルーシブ研究会 vol.6「多文化共生 ～町田に住む外国ルーツの方とお話しましょう！～」  外国ルーツの当事者によるトークセッション	市内3団体の連携により組織された新しい団体「たぶまち」の企画により開催。本企画の開催をきっかけに活動が発展し、2つの新規事業をスタートした。
7月 ナイト オープン デー	午後：まちカフェ！インクルーシブ研究会 vol.7「障がいと共に働く」 夜間：イベント企画塾	午後：就労移行支援事業所ワン・ブリッジ町田の企画提案により開催された講座。 夜間：まちカフェ！に向けて企画を検討するタイミングにあわせてオフィススタッフが講師になりイベント企画の基本をお伝えした。
8月 ナイト	夜間：地域活動の資金の集め方	サポートオフィススタッフが講師となり市民活動の資金集めの全体像を伝え

オープ ンデー		る講座を実施。夜間に実施したことで今まで参加のなかった仕事帰りの方などの参加があった。
9 月	午前：イベント企画塾 ～ちらしづくり編 午後：「ワンデイおうえん隊説明会」 見つけよう地域で私ができること	午前：まちカフェ！に向けてチラシ作成をスタートするタイミングにあわせてサポートオフィススタッフが講師となり 7 月に開催した基本編の続編として開催。 午後：ワンデイおうえん隊の説明会とそれぞれの得意不得意を理解する診断を実施。はじめて地域活動をする方のきっかけづくりを行った。
10 月	まちカフェ！準備、なんでも相談会	まちカフェ！準備用にラミネート機等を貸し出し。本番に向けての相談を受け付けた。作業をしながらという環境が相談しやすい雰囲気となった。
11 月	まちカフェ！インクルーシブ研究会 vol.8 デフリンピック日本初開催！ 「聞こえない」を知ろう  全員でジェスチャーゲームと手話を体験	これまで連携がとれていなかったまちカフェ！に参加している手話団体 5 団体に合同で企画を検討してもらい、団体連携を促進。企画は、体験的な内容で参加者満足度も高かった。 手話団体 5 団体：町田市聴覚障害者協会、手話サークルまちだ、JSL アミーゴ倶楽部、町田ろうなん協会、手話べり場 S
12 月	企画なし	まちカフェ！写真を投影。報告書作成の相談を受け付けた。
1 月	WAM 助成 助成説明会 & 相談会	福祉医療機構が実施する「WAM 助成」説明会。町田が唯一の開催地となり、オンラインは 100 名参加となった。対面では、WAM 担当者による個

		別相談の他、サポートオフィスも助成金全般についての相談にのった。
2 月	＜鑑賞イベント＞映像から知る町田市の歩み	町田市の市制 5 周年、30 周年の映像を鑑賞するイベント。たまたま別件で来庁していた方も参加するなど普段地域活動に関心がない層にも参加してもらえる企画となった。
3 月	＜大学生ボランティア卒論発表＞ ～町田市ユニカール協会での活動を通して その他：持ち込み企画「もくもく会」 (活動団体が集まって作業をする会)	学生おうえん隊でボランティアとして町田市ユニカール協会で活動していた、法政大学社会学部 4 年生による卒業論文「ユニバーサルスポーツが地域に与える影響と価値」の発表。町田市ユニカール協会の方にもご登壇いただき、両者の考えもお話していただき活発な意見交換が生まれる場となった。

●地区への支援

【地域コミュニティの未来に関する共同研究】

研究委員会に参加するとともに、10 地区で開催された中間報告会にも参加し、町田市の地域コミュニティへの理解を深めた。

【鶴川地区】

鶴川ハッピーフライデーに継続して参加。2025 年度は、まちカフェ！オープンデーに来訪した相談者を鶴川地区協議会におつなぎして実現した子育て親子向け企画、まちカフェ！参加団体等と連携した「夏休み宿題解決大作戦」など地域の活動団体と地区協議会の連携を促進した。また、大人と中学生の対話の場「トークフォークダンス」も継続実施され、サポートオフィスが進行役として参加した。



▲鶴川ハッピーフライデー内で開催した「夏休み宿題解決大作戦」色の見え方マジック〜ブンブンごまを作って考えよう（講師：鶴川サイエンスラボ）。



▲鶴川ハッピーフライデー内で開催した「ハッピーコンサート」（企画実施：こどレスひろば）。まちカフェ！オープンデーでの相談から開催につながった。

【忠生地区】

忠生地区協議会総会後に参加団体の協働を促進するワークショップが開催され（主催：忠生地区協議会）、サポートオフィスは進行役として参加した。その後、当該ワークショップで提案されたプロジェクト「忠生地区協議会〜何とかならないかシリーズ1 医者にかかりに行った帰りのバスないを考える」についても継続して伴走支援を行った。

●地域活動団体間連携

【まちだ子どもアクション】

町田市内の子ども・子育て支援団体の横のつながり「まちだ子どもアクション」の活動を継続して支援をした。具体的には、パンフレット制作、奇数月1日開催しゃべり場開催、フォーラム開催などを実施した。

(2) 地域活動に関する情報収集及び発信事業

ア 広報誌の作成

紙媒体である「サポートオフィス通信」を公式 LINE から手軽に閲覧できる仕組みに、発行部数を 500 部減らし発行。活動により活かしやすい情報提供となるよう、団体等へのヒアリングを積極的に行い、特集を組んだ。またサポートオフィスがより身近で相談しやすい存在となるべく、職員による持ち回りのコラム連載をスタートさせた。

【実施目標：発行年 10 回以上／各回 1,000 部

→実績：発行年 10 回／各回 1,000 部】

<各号内容>

発行号	主な掲載内容
57 号	2025 年度イベント・セミナー開催情報
58 号	今日から実践できる！団体活動に新しいメンバーを受け入れるコツ
59 号	運営者に聞く！地域に根ざした「居場所づくり」のコツ
60 号	事例から学ぶ協働プロジェクトの成果と進め方のコツ
61 号	町内会・自治会、地区協議会と市民活動団体の協働事例
62 号	地域の関係性づくり～地域でやりたい・叶えたいをサポートオフィスが企画からお手伝いします！
63 号	仲間を増やすコーディネーション～3つのポイント
64 号	サポートオフィスおすすめ！“団体の振り返り”3つの手法
65 号	寄付募集のはじめ方！活動を支える応援を集めるコツ
66 号	私たちの新しいチャレンジ～まちカフェ！から生まれたから広がり

イ ホームページ運営及び SNS・メルマガ等を活用した情報発信

●ホームページは、サポートオフィス主催講座の開催報告記録を中心にウェブコンテンツ化し、参加者以外も活用できる情報を発信した。AI 検索や AI チャットボットで拾われることを想定し、掲載する情報は一次情報を入れ込む、コンスタントに情報を公開するなどの工夫を行った。そのこともあり、AI チャットボットでサポートオフィスを見つけ相談に至ったケースが数件あり、認知経路拡大の新しい視点を得た。

【実施目標：100 件→実績：116 件】

●SNS では、ターゲットニーズや状況に即した新たなツールとして、公式 LINE の導入を試行した。このことで、郵送費をかけて送付していた「サポートオフィス通信」を電子化したり、メールマガジンを読まない層へもイベント・講座等の情報を届けたりすることができた。2026 年度本格実装に向け、お友達登録を増やす新規施策のほかに、継続して見ていただける施策の企画・実施を進めていきたい。

【実施目標：新規 SNS の導入検討→実績 公式 LINE 導入】

<ホームページ> 掲載総数：116 件

イベント 告知記事	イベント等 実施報告	団体訪問 レポート	コラム	お知らせ	その他
31	50	9	1	23	2

<SNS>

Facebook フォロワー 1,851 件(前年度比 56 件増)

X フォロワー 1,087 件 (前年度比 11 件減)

Instagram フォロワー 1,742 件(前年度比 227 件増)

<メルマガ>サポートオフィス通信発行、講座案内等を中心に発行 年 16 回発行

【主な成果】

AI 検索経由で今までタッチポイントを作れなかった層からの相談を増やせた。また、掲載記事からメディアによる取材へ発展した事例も生まれた。

成果事例 1：MICO LEMONADE

MICO LEMONADE が行ったチャリティ活動を「サポートオフィス通信」で掲載したところ、タウンニュース記者より、記事として取り上げたいと連絡があり、掲載に至った。



成果事例 2：D フレンズ

トークセッション「みんなの経験共有会」の開催レポートをホームページに掲載したところ、それを見た他県から登壇者への講演依頼があった。講演会に出演できたことも大変喜んでおられた。

(3) 地域活動を行う組織の基盤強化及び人材育成事業

ア 講座の実施【目標年 16 開催 →実績 24 回開催】

ー開催数内訳ー

①団体の事業計画を策定する伴走型連続講座まちづくりカレッジ

【実績：全 5 回×2 コース＝計 10 回 成果：ナリワイ策定（ナリワイづくりコース）9 名、三つ折りパンフレット制作（組織づくりコース）5 団体】

ナリワイづくりコース（個人向け）	組織づくりコース（団体向け）
昨年度からの変更点： 外部講師を招へいせずサポートオフィス職員が全回講師を務めた。受講生同士が内容をブラッシュアップする「ボット」という回を開催したことで、受講生同士のつながりづくりを強化することができた。	昨年度からの変更点： 講座終了時のアウトプットを事業計画書から三つ折りパンフレットの制作に変更し、より受講しやすい内容とした。また、ペルソナの行動変容を検討する「カスタマージャーニー」という手法を学ぶ回を追加した。
Day1 オリエンテーション／自分の「好き」を掘り下げる	Day1 オリエンテーション／団体のビジョン・ミッションを考える
Day2 事業を届けたいたった一人のペルソナを考える	Day2 事業計画や広報に効果的な事業のターゲット・ペルソナを考え、カスタマージャーニーマップを作る
Day3 ナリワイ事業計画を作る（収支計画・価格設定・体験ワーク）	Day3 事業を広く継続的に進めていくためのステークホルダーを考える
Day4 事業計画のブラッシュアップ	Day4 三つ折りパンフレットの制作方法や構造を学ぶ
Day5 最終報告を実施	

2024 年度に引き続き「ナリワイづくりコース」及び「組織づくりコース」の 2 コースを開催し、「ナリワイづくりコース」9 名、「組織づくりコース」5 団体が参加した。ナリワイづくりコースは、9 名中 8 名が新たなナリワイを策定し、まちカフェ！で実践の第一歩を踏み出した。組織づくりコースは、5 団体が三つ折りパンフレットを完成。完成した三つ折りパンフレットを配布したことで主催イベントの参加者が増えたという声も多かった。

- ②まちだづくりサロン特別編「地域づくりニューリーダー論 ～だれもが地域づくりの仲間となるために（講師：石井大一郎さん（宇都宮大学コミュニティデザイン学科教授）

【実績：1回開催】

- ③みんなの経験共有会 【実績：3回開催】

町田市内で活動する団体・個人の経験を共有することを目的として2022年より開催。2025年度も＜温故知新シリーズ＞として、この先も町田で語り継いでいきたい活動をしている地域活動の先輩をゲストにお招きしお話いただいた。

vol.22	みんなの経験共有会「町田から全国へ広がるボランティア～まちだサポーターズのあゆみ～」
vol.23	みんなの経験共有会「町田のたのしいごみ削減啓発活動～みんなから大人気！うまちゃん&ゆうちゃんのあゆみ～」
vol.24	みんなの経験共有会「未来につなぐ感動の演劇～NPO 法人町田演劇鑑賞会のあゆみ～」

- ④まちカフェ！インクルーシブ研究会 【実績：3回開催】

まちカフェ！参加団体から「まちカフェ！が誰でも心地よく参加できる場になるために、参加団体が学ぶ場を企画してほしい」という声をもとに実施した企画。2025年度は、団体から提案による企画実施、複数団体の協働による企画など内容に広がり生まれた。研究会以降も協働での取り組みを継続する事例などの成果につながっている。

vol.6	「多文化共生～町田に住む外国ルーツの方とお話しましょう！」（講師：たぶまち）
vol.7	「障がいと共に働く」（講師：就労移行支援事業所ワン・ブリッジ町田）
vol.8	「デフリンピック日本初開催！「聞こえない」を知ろう」（講師：手話団体5団体）

⑤まちだのコーディネーター研究会【実績：6回開催】

2025年度より新たに開始した取組。地域づくりのつなぎ役「コーディネーター」に必要な「専門性」をインタビューし言語化すること、そしてコーディネーター同士の情報交換の場となることを目的として開催。

1	準備会	これからの登壇者や開催テーマを参加者で議論し決定
2	第1回	・安達聡子さん（陽だまりカフェオーナー） ～地域の多世代をつなぐコーディネーター） ・江藤佑さん（桜美林大学 LA 学群サービスラーニングセンター） ～教員・学生と地域をつなぐコーディネーター）
3	第2回	・川合志織さん（三ツ目山冒険遊び場） ～子どもと遊びを中心に地域をつなぐコーディネーター） ・宮島徹さん（学校支援センターゼネラルボランティアコーディネーター） ～学校と地域をつなぐボランティア同士をつなぐコーディネーター）
4	第3回	・熊坂有美さん（子ども食堂「すまいるキッチン」運営メンバー、町田市民生 委員児童委員）～地元 原町田で地域をつなぐコーディネーター） ・高木千賀子さん（寺子屋ごはん代表） ～地域で子どもとシニアをつなぐコーディネーター）
5	第4回	・福原 信広さん（サレジオ工業高等専門学校事務局長） ～教育機関とコトをつなぐコーディネーター ・富澤 茂雄さん（町田まちづくり公社事業部長） ～まちとコトをつなぐコーディネーター）
6	第5回	・世羅田 京子さん（ART55 主宰） ～アーティストとまちをつなぐコーディネーター） ・田中 亮太郎さん（町田市生涯学習センター職員） ～ひとと学びをつなぐコーディネーター）

⑥まちだ子どもアクション「聴けてる？子どもの声 届いてる？わたしの声 ～子どもと共にあ
りたい大人の学び場 vol.2」（まちだ子どもアクション、町田市生涯学習センター、町田市
地域活動サポートオフィス共催）【実績：1回開催】

基調講演講師：松田妙子さん（NPO 法人せたがや子育てネット代表理事）

市内子ども支援団体のネットワークまちだ子どもアクションによるフォーラムの vol2。
サポートオフィスも共催にて実施した。市内の子ども、子育て支援団体等の関係者が 42 名
集まり、「子どもにやさしいまち」の実現に向けて今後連携して実施できることについて

意見交換を行った。サポートオフィスでは、アイデアを実現させるための伴走を継続していく。



【主な成果】

- ・参加者の中から、後日サポートオフィスへ「フォーラムでつながった他団体との連携」や「資金獲得」に関する相談が寄せられた。そのうち2件については、子ども総務課からの委託事業へのエントリーを促し、現在は採択に向けて伴走支援を行っている。
- ・市内の子育て団体・行政機関・地元企業と連携した親子を対象イベント「ファミリーフェス」（らぶふぁみ主催）と連携し、フォーラム終了後に「ファミリーフェス」の会議を実施した。本フォーラムに参加した冒険遊び場や子ども食堂のメンバーが共通目標を見出し、ネットワークとして参加。他団体との連携やステークホルダー拡充につながった。

⑦その他 【実績：8回開催】

1	公益財団法人トヨタ財団助成 公募説明会&助成金プチ講座
2	イベント企画塾
3	地域活動の資金の集め方
4	伝わる・まとまる・動き出す！会議のつくりかた ～体験しながら学ぶファシリテーション実践講座～
5	イベント企画塾 ～ちらしづくり編
6	2026 年度日本郵便年賀寄付金配分説明会・助成金プチ講座
7	独立行政法人福祉医療機構 WAM 助成 応募説明会
8	大学生ボランティア卒論発表～町田市ユニカール協会での活動を通して

イ 町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！実行委員会事務局業務

【目標：協働による企画の実施年 10 件

→実績：まちカフェ！内での協働事業 59 件実施、他イベントとの連携 2 件】

<情報発信>

ホームページ：イベント情報、参加団体情報、実行委員会開催レポート掲載

SNS：Facebook フォロワー 455 件、X フォロワー 244 件、

Instagram フォロワー 562 件

メルマガ：実行委員会案内、報告等の内容を中心に発行 年 20 回発行

<開催概要>

日 程：2025 年 11 月 29 日（土）～12 月 7 日（日）

会 場：市庁舎・市内各所の会場およびオンライン

共 催：まちカフェ！実行委員会、町田市市民協働推進課

テーマ：未来への架け橋～まちカフェ！×〇〇＝∞（無限大）

参加団体数／実施企画数：

冊子掲載団体 156 団体

企画実施団体企画

・11/29(土)市庁舎 143 団体 152 企画

・その他 41 企画

協賛 27 団体/個人 48 口

来場者数：市庁舎 8,223 人 その他 1,714 人 合計 9,937 人

おうえん隊参加数：おうえん隊・ワンデイおうえん隊 44 名、3 団体

会議開催実績：準備会 1 回、実行委員会全体会議 4 回、アワード交流会 1 回

ウ まちカフェ！おうえん隊

【実施目標：学生おうえん隊・ワンデイおうえん隊 各 1 回

→実績：学生おうえん隊は内容を改訂したプログラムとして実施、ワンデイ おうえん隊（5 種類）1 回】

誰もが参加しやすい、数時間からできるボランティア「ワンデイおうえん隊」は、「封入チーム」、「力持ちチーム」、「ご案内チーム」、「取材チーム」、「カメラチーム」と役割を明確にして募集を行った。ワンデイおうえん隊には、44 名+3 団体（就労移行支援事業所他）が参加した。学生おうえん隊は、内容を改定した「まちだ地域まるとキャンパス」として実施し、まちカフェ！内でも各団体で学生が活躍した。

エ その他 若年層へのアプローチ

●まちだ地域まるごとキャンパス

【実績：高校生・大学生他 76 名 受け入れ団体・企業 20 (21 企画)】

「まちカフェ！学生おうえん隊」プログラムの発展形として新たにスタートした事業。受け入れ団体をボランティア・市民活動団体や自治会・町内会活動、企業の CSR 活動、参加学生は、高校生以上と対象を広げた。また、あらかじめ 1DAY、3DAYS と 2 つのプログラムを設定し、より参加しやすい事業に改変した。その結果、前年度（学生おうえん隊プログラム）と比較すると参加団体数は、約 2 倍（昨年度 10 団体）、参加学生は、約 3 倍（昨年度 24 名）となった。



▲「まちだ地域まるごとキャンパス」団体・学生による報告会

【参加者からの声】

- ・少しだけど、運営側の気分を味わえたことが嬉しかったです。学生の視点では気づけないことを知れて勉強になりました。
- ・団体の方から「学生の皆さんと活動することによって大切なことを学ばせていただきました」というお言葉を頂き嬉しくとても光栄な気持ちになりました。

【参加団体からの声】

- ・自分にはない考えや案が多く出て助かりました。今回のイベントで考えた内容がイベント後もほかの地域活動の場で活用されていることもとても嬉しく思っています。
- ・若い力（エネルギー）を与えていただき、団体メンバーの間に新鮮な風を感じました。これからもドンドン年配者に提案をしてください。

<まちだ地域まるごとキャンパス広報実績>

実施校	広報の方法
玉川大学リベラルアーツ学部授業「ボランティア論」	ゲスト講師として地域活動の授業とともにプログラムを紹介
第一学院高等学校 町田キャンパス	キャンパス内へのチラシ掲示
小川高校ボランティア部	部活動時間内に訪問
麻布大学	大学からのメール配信
法政大学社会学部授業「コミュニティデザイン論Ⅰ」	授業内で紹介
サレジオ高等専門学校	学校からのメール配信
桐蔭横浜大学「行政学」	授業内で紹介
女子美術大学「基礎構成演習」	授業内で紹介
桜美林大学健康福祉学群「刑事司法と福祉」	授業内で紹介
桜美林大学学内説明会・ボランティアフェス出展	学内で説明会の開催およびボランティアフェス内で個別相談ブースの設置
さがまちコンソーシアム	加盟校すべてにメール配信

●教育機関との連携

<大学>

・昭和薬科大学

「昭和薬科大学地域活動実践プログラム」（3年目）は、14名の学生が10団体で活動を行った。アンケートに回答した学生7名中、5名が「満足」、2名が「やや満足」と回答した。町田市からは町田市保健所保健予防課が参加し、若者向けに性感染症予防の啓発を行うことを目的とした、トイレに貼るステッカーや配布するポケットティッシュの記載内容を学生とともに検討。完成品市内各所に配布した。

・法政大学

ソーシャル・イノベーションセンター教育プログラム「チェンジメーカーズラボ in 多摩（通称：たまらぼ）」（2年目）

<中学校>

- ・南成瀬中学校 まちカフェ！取材体験ボランティア

NANNARU フェスタ出展（ボランティア理解を啓発するブース）

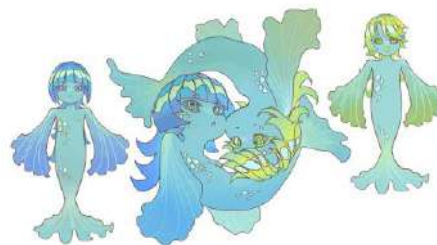
- ・職場体験 柿生中学校、南中学校、金井中学校から合計 11 名の生徒を受け入れた。中学生とともに市民活動団体取材し、取材結果を中学生がまとめてサポートオフィス通信や廊下への展示物を制作した。

●行政との協働

選挙管理委員会事務局、福祉総務課の相談から若者が企画提案するプロジェクトを実施した。サポートオフィスは、若者によるプロジェクトチームを組織・運営し、制作物の完成までを進行した。



- ▲若者のアイデアを取り入れ、若手デザイナーが制作した市議会議員選挙、市長選挙啓発ポスター



- ▲若者のアイデアを取り入れ、女子美術大学学生デザインチームが制作したまちだユニバーサル社会推進キャラクター「ナギとミネ」

（４）地域活動に関する調査研究事業

- ア 市内で活動する団体に対する調査 市内活動団体ヒアリング【目標 10 団体→実績 10 団体】まちカフェ！参加団体が回答した「実施報告アンケート」に基づき 10 団体へのヒアリングを実施した。次年度に向けた課題や企画案も寄せられたので、次年度の実行委員会へ引き継ぐとともに、事務局としての企画にも生かしていく。

【ヒアリングから見てきた次年度企画の芽（抜粋）】

- ・団体間の交流の促進：個人単位で広報や運営を支援する「まちカフェ！アンバサダー」のような存在を作る／団体間交流ができる時間の創出
- ・広報および情報発信の改善：誰でもすぐに SNS 投稿できる投稿テンプレートの用意／子ども向けのチラシやパンフレットの制作
- ・会場運営の改善：視覚的案内ボードの設置／備品使用ガイドラインの整備

<ヒアリングをした団体>

	開催日時 場所	団体
1	1 月 16 日 市民協働おうえんルーム	MICO LEMONADE
2	1 月 21 日 サポートオフィス	鶴川サイエンスラボ
3	1 月 28 日 オンライン	色彩心理グリーンハートラボ
4	2 月 4 日 オンライン	一般社団法人ものづくり文化振興協会
5	2 月 4 日 サポートオフィス	町田市防災アンバサダー
6	2 月 5 日 市民協働おうえんルーム	まちだこども選挙実行委員会
7	2 月 5 日 市民協働おうえんルーム	町田子ども劇場
8	2 月 9 日 サポートオフィス	町田市子ども創造キャンパスひなた村
9	3 月 4 日 サポートオフィス	NPO 法人アクティブ SITA
10	3 月 5 日 市民協働おうえんルーム	町田市ユニカール協会

イ 市内外中間支援組織へのヒアリング等 【目標 3 回→実績 5 回】

ヒアリング先	開催場所	ヒアリング内容
多摩 8 市・市民活動情報連絡会	八王子市	NPO3.0 これからの中間支援組織の役割をわが市はこう担う
丸亀市市民交流活動センターマルタス	丸亀市	丸亀市協働推進部地域づくり課によるコミュニティの成り立ちや現状・課題について
岡山 NPO センター (ESD・市民協働推進センター)	岡山市	地域の多様な主体と共に行う、地域の課題解決と価値創造や現実の一步先の取り組みと仕組みについて
「地域でリサーチ！3 ビズプレゼン大会」現地視察	埼玉県杉戸町	カレッジ「ナリワイコース」の参考
多摩 8 市・市民活動情報連絡会	日野市	今後他市とどのように連携していけるか

ウ 支援体制の強化に向けた調査

【目標 2 団体→実績 3 企業、1 事業（内訳：まちカフェ！協賛企業 2 企業、そのほか 1 企業、1 事業）】

商工会議所サービス業部会主催の「心のバリアフリー」振り返りの会に出席し、「まちカフェ！」との連携の可能性について検討を行った。また、昭和薬科大学地域実践プログラムの受け入れ先である JKK 東京に対し、学生との連携事業に関するヒアリングを実施。さらに「まちカフェ！」協賛企業へのヒアリングを通じ、今後の地域貢献の在り方について意見交換を行った。

（５）資金調達支援事業

ア 資金調達に関する伴走支援事業 【目標 7 団体以上→実績 7 団体】

内訳：助成金公募説明会 3 回開催

助成金応募支援 7 団体（下記＜助成金応募支援＞参照）

＜助成金応募支援＞

団体名・個人名	助成プログラム	結果
社会福祉法人輝くるみ園	日本郵便年賀寄付金助成金	検討の上、応募至らず
たぶまち	東京ゆめ応援ファンド	採択
いぬねこ守りてネットワーク	キリン福祉財団	採択
NPO 法人ゆどうふ	複数の助成プログラムを紹介	検討の上、応募至らず
みんなの居場所ぬくぬく	歳末たすけあい・地域福祉活動募金配分事業	採択
まちだみどり活用ネットワーク	ドコモ市民活動団体助成事業「環境部門」	応募中
おむすび cafe	公益財団法人 オリックス宮内財団	採択

イ 地域活動を支える資金支援の仕組みの構築

・まちだづくり応援基金

助成：応募 11 件中 9 件に合計 299,000 円を助成（下記＜2025 年度助成先一覧＞参照）

寄付：74 件、1,152,750 円

<2025 年度助成先一覧>

団体名・個人名	事業名	助成額
萩原恵美子	不登校経験のある中・高校生の折り染め先生プロジェクト	44,000 円
町田いのちの授業研究会 助産師サークル	出張！いのちの授業～町田市の助産師が中学生へ伝えているいのちの話～	40,000 円
スヌーズレンブラックライトルームを普及する会	障がいを持つお子さんや保護者の方に気兼ねなく楽しんでもらうための空間「スヌーズレンブラックライトルーム」無料体験会の開催	50,000 円
丸山子ども会	地域をつなぐハロウィンウォーク	50,000 円
もこもこフェスティバル	2つの防犯講座～子どもを守る＝地域を守る～	40,000 円
ゆるっとこども未来まちだ	子育て当事者による子育て世代の投票率向上プロジェクト in まちだ	25,000 円
清住平 Wind Music	小山田で音楽活動を通じて、地域住民の交流を深める！『OYAMADA Music Festival』	20,000 円
町田 emo プロジェクト	孤独ゼロへ！町田 emo アクション ～ごみ拾いとジョギングで心を結ぶ～	15,000 円
高齢者共生の会	地域における認知症研修を、フレイルとの関係を踏まえ、関係団体と連携し、自治会からの支援を活用し、レベルアップして開催する	15,000 円

<まちだづくり応援基金関連イベント等開催実績>

開催日	内容
4月3日	まちだづくり応援基金の公募説明会 @市民協働おうえんルーム
8～9月	サポートオフィスインターン生（さがまちインターンシッププログラム）による助成活動インタビュー／冊子作成
10月21日	まちだづくり応援基金中間交流会 @氣の活用.com 道場
3月	まちだづくり応援基金最終報告書作成
3月22日	まちだづくり応援基金実施説明会・報告会&チャリティーイベント @kichika



▲まちだづくり応援基金実施説明会・報告会&チャリティーイベント

・地域活動応援おみくじ

寄付のきっかけづくりのため、市内で地域活動を実践している方の「名言」を掲載した「おみくじ」を作成した。このおみくじを機に、多くの人が地域活動に興味を持つ契機となった。さらに、市内外での積極的な告知展開や募金箱への寄付呼びかけを組み合わせた結果、総計 74 件の寄付につながった。



(6) その他

町田市市民協働推進課以外からの講師依頼や事業委託についても積極的に受け、自主財源や知見を増やすとともにサポートオフィスの認知拡大や多様な団体との関係構築を進めた。

依頼元	内容	テーマ	担当
昭和薬科大学地域連携センター	企画運営	地域活動実践プログラム	橋本
昭和薬科大学地域連携センター	運営協力	おくすり・子育て相談カフェ	喜田
昭和薬科大学昭和薬科大学臨床心理学研究室	運営協力	「人と文化 5～人の行動と心理～」 赤ちゃん親子がやってきた授業	喜田
町田市選挙管理委員会事務局	企画運営	若者の選挙啓発に係る協働事業企画運営	橋本
町田市選挙管理委員会事務局	企画運営	選挙啓発ポスター制作プロジェクト	橋本
玉川大学	講師	ボランティア概論	橋本・杉山

町田市社会福祉士会	講師	地域活動サポートオフィスの社会資源としての特色と働き	喜田
さがみはら市民活動センター	講師	団体の魅力を伝える A4 三つ折りリーフレット	杉山
法政大学社会学部	講師	町田の NPO や地域活動の状況、中間支援について	橋本・山根
いざ！鎌倉古道の会	司会	多摩丘陵の源義経伝説の謎 ～鎌倉幕府“北の最前線”に埋もれた歴史～	杉山
ひの市民活動ネットワーク	講師	地域活動団体のための多様な資金の集め方	喜田
相模原・町田大学地域コンソーシアム	講師	情報を届けたい人を徹底的に考える「ターゲットとペルソナ」	杉山
相模原・町田大学地域コンソーシアム	講師	思わず参加したくなるスイッチを押す言葉 「心に響くキャッチコピーを作る」	杉山
町田市手をつなぐ育成会「つむぐ」	司会	レッツ・エンジョイ!! 自立生活♪	杉山
東京ボランティア・市民活動センター	講師	学生や若者へのアプローチ	橋本
神奈川区まちづくり学校（NPO 法人親がめ）	講師	他都市から学ぶ これからのまちづくり	喜田
独立行政法人福祉医療機構シンポジウム	企画・進行	令和 7 年度 WAM 助成シンポジウム「持続可能な活動に向けて～歩みを止めないための明日へのヒント	喜田
法政大学 ソーシャル・イノベーションセンター	運営支援	チェンジメーカーズラボ in 多摩（たまらぼ）	喜田・橋本・山根
帝京大学 医療技術学部	講師	中間支援組織、地域のつながりについて	杉山
日本福祉教育専門学校	講師	ソーシャルワーク実習 中間支援組織から見る地域における課題解決の充実と発展	杉山
東京ボランティア・市民活動センター	講師	「市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2026」若者と地域をつなぐ NPO インターンシッ	橋本

		プ～小さくやってみるヒントを事例から学ぶ～	
法政大学現代福祉学部	講師	ボランティアアクション	橋本
長野県 NPO センター	講師	仲間づくりのコツ講座	橋本
山口県民活動促進実行委員会	講師	つながりの力、継続の力がつくるもの 町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！の取り組みから	喜田
特定非営利活動法人日本 NPO センター／東京ボランティア・市民活動センター／街活性室株式会社	事例報告	東京都内自治体・市民活動支援センター向け勉強会「これからの NPO・市民活動支援東京都内での展開を考える」	喜田
地域福祉部福祉総務課 (株式会社アークポイント)	企画運営	ユニバーサル社会推進キャラクター企画制作業務	橋本
東京オレンヂ	講師	利用者さん向けに Canva の基本的な使い方のレクチャーと実操作の指導	杉山
地域福祉部福祉総務課	企画・進行	〇ごとつながりミーティング	喜田、杉山
ヨリドコ小野路宿	進行	コミュニティコーピング	橋本

4 主たる成果

- ・活性化した団体は、58 団体に達した。まちだづくり応援基金、まちだ地域まるごとキャンパス、まちだづくりカレッジといった事業を通じた支援が、団体の活性化につながっている。また、相談から行政や企業との連携、助成金応募まで一貫して支援を行う伴走支援の事例も増えてきており、着実な団体の成長へとつなげることができた。
- ・学生おうえん隊プログラムを刷新し、「まちだ地域まるごとキャンパス」として実施した。事前に団体に 1DAY もしくは、3DAYS といった枠組みの中で、学生受け入れの計画を立ててもらい、その内容に基づいて団体を選択してもらうといった具体的なプログラムにすることで、初めて学生を受け入れる団体、初めて地域活動をする学生にとっても参加しやすい事業となり、従来の『学生おうえん隊』に比べて団体・学生ともに参加数が大幅に増加した。
- ・まちカフェ！実行委員会では、役員による会議進行、実行委員会からの提案によるプロジェクトの実施など、主体的な活動を支援した。多くの協働取組が生まれ、イベント終了後に別のイベントで新たに連携するなど、持続的な協働のきっかけづくりにつながった。

5 2026 年度の方向性

中期計画（2023-2026）の最終年度として、達成状況の分析を行い、これまでの成果を定着させるとともに、次期 5 か年計画に向けて計画を策定し、あわせて成果指標の見直しを行う。また、第 20 回町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！の節目を契機として、地域活動に関わっていない潜在層へのアプローチを強化する。

以上